

第1回 明石港東外港地区再開発計画検討委員会 議事要旨

1. 開催日時 平成28年10月4日(火) 15:30~17:30

2. 開催場所 明石商工会議所 7階会議室

3. 出席者(敬称略、50音順)

雨宮 功(兵庫県県土整備部土木局港湾課長)
伊藤 一(中崎まちづくりの会 会長)
伊藤 裕文(兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所長)
大橋 健一(明石工業高等専門学校 名誉教授)
樫原 一法((一社)明石観光協会 専務理事)
柏木 千春(流通科学大学 教授)
酒井 貴司(近畿地方整備局港湾空港部 計画企画官)
田端 和彦(兵庫大学 副学長)
西海 正隆(明石商工会議所 副会頭)
橋本 浩司(明石市連合まちづくり協議会 顧問)
橋本 幹也(明石市漁業組合連合会 会長)
福田 成男(明石市理事(技術担当))
宮脇 俊夫(明石市理事(総合戦略担当))

4. 議事

(1) 会長の選出

委員の互選により、会長には明石工業高等専門学校名誉教授の大橋健一委員が選任された。

会長代理には、会長により兵庫大学副学長の田端和彦委員が指名された。

(2) 委員会の概要、明石港を取り巻く状況、明石港の概要、関連計画、明石港への要請・課題、今後の進め方

下記「5. 主な意見・質問」を参照。

5. 主な質問・意見

質問

質問	回答
ジェノバラインから錦江橋の間、たこフェリー跡地周辺、たこフェリー跡地から展望公園の間の歩道整備の目処について、教えてほしい。	ジェノバラインから錦江橋の間約200mは、道路が非常に狭く傷んでいるので、市中心市街地の道路の再生として、第2期中心市街地活性化基本計画において、道路改

	<p>良と合わせて検討していく。</p> <p>たこフェリー跡地周辺について、南側の 棧橋沿いは、マンション開発時に6mの管 理用通路を地域の遊歩道として一部暫定整 備している。たこフェリー跡地東側の物揚 場沿いは歩道がないため、環境整備事業で 歩道を整備できるかどうか検討予定。</p> <p>たこフェリー跡地から展望広場の間につ いては、まず、国道28号南側については、 港の再生に関連させて国に歩道改良を要請 していく。そこから展望公園までの間につ いては、今回の検討エリアであり、これら を前提にご議論いただきたい。</p>
<p>県として、明石港の位置付けをどう考 えているのか。</p>	<p>フェリーがあった東外港地区、定期船の 発着所がある本港地区、漁業を中心とし た西外港、中外港地区があり、地域の活 動に根づいた利用をする港と考えてい る。</p>
<p>観光のターゲットをどこに設定してい るか教えてほしい。また、住民にとっ てどのような観光、レクリエーション の場として位置付けるかについても聞 きたい。</p>	<p>市内の近隣地区だけでなく、京阪神 からの日帰り客を観光のターゲットと して考えている。ただし、近隣の人を 無視するのではなく、周辺の居住環 境を損ねることなく、例えば緑地機 能を持たせるなど、居住環境を向上 させるような施設にする必要がある。</p>
<p>国道2号以南をどうするかが課題であ ることは共通の認識であり、中心市街 地活性化計画ではこの地区のイメージ をどのように計画しているのか教えて ほしい。</p>	<p>この東外港地区については、長期的 な課題があり、再開発計画が何度も 見直されてきたこともあって、2期計 画においても具体的には描けなかつ た。また、1期計画期間中には、た こフェリーが赤字を抱え、それを埋 める形で土地が売却され、結果的に マンションが建った経緯がある。</p>
<p>播磨灘では小型船のクルージングは 認められていないが、何か対策はあ るか。</p>	<p>規制緩和を要望しているが、まだ実 現していない。船舶設備等の規制が あるが、ジェノバラインによる直島・ 犬島への観光クルーズなどが既に行 われており、現状でもクルージング が全くできないというわけではない。</p>

<p>計画検討にあたり、緊急性や重要性が高い防災事業の実施を踏まえて検討する必要があるが、分かることはあるか。</p>	<p>明石港は淡路島の裏側に位置するため、津波の影響を受け難くなっている。高潮対策を進めれば、それが結果的に津波対策にもなる。</p> <p>明石港の本港や東外港地区は、高潮対策事業を終えている。</p>
---	--

意見

<今後の検討に関して>

- 明石の特徴は、漁業にあると思う。和歌山県の白浜には「とれとれ市場」があり賑わっている。明石にも、似たような施設ができないか。
- 明石港においては、「魚」を除いて語ることはできないので、「魚」や「海」は重要視したい。
- ウォーターフロントの再開発で「魚」などを扱った我が国の事例を集めてほしい。
- 明石市にとって明石港は非常に重要な位置づけにあり、人の流れや魚といったことを重視すべき。現状の土地利用は決して適切な状況にあるとは言えない。
- 検討を進める上で重視すべきことに、「人の流れ」、「魚」、「明石海峡」、「明石海峡大橋」がある。また、交通の要所であり続けてきたこと、明石市沿岸部には数少ない自然海岸・半自然海岸が残されていることにも注視すべき。
- 明石らしさをはっきりさせることで、時間とお金をかけてここへ来る意味が明確になる。明石らしさをもっと具体的に定義しておくことが重要。
- 誰と来ているかは、観光プランを考える上で重要なポイントで、誰と一緒に来るかによって求めるものが異なる。誰とどんな時間を共有するために明石に来ているかを整理してほしい。
- この地域をどんな都市として位置づけようとしているのかというポジショニングが明確になると、観光空間の演出、イメージ付け、用意するものについて、具体的なイメージが湧く。
- 明石市は海を臨むまちであることが大きな特徴である。また、市街地化が進んだ非常に便利でコンパクトなまちであることも特徴の一つである。明石らしさを一つ挙げるならば、まずは海、そして豊かな自然や歴史をいかした住みよいまちになるかと思う。
- 「らしさ」を出す必要があると考えており、やはり、それは海と魚だと思う。あわせて、いろんな歴史・文化施設があるので、それらをいかに結びつけるかということが大事である。
- 計画地を利用して、人の往来が発生するようにしたい。来訪者が誰と来て、どういう動きをしているかが気になる。また、3時間以下の滞在が過半数なので、滞在時間も検討する必要がある。
- この地域は南海トラフや山崎断層等による地震の影響があるため、ハザードマップを

用意してほしい。

- 定期旅客船の位置付けについて、委員会に関係者がいないため、意見収集をしておいてほしい。
- かつては、水産物分場に淡路から明石までの魚が集まり、魚の棚に賑わいがあった。現在、明石市にある5つの漁業組合は、獲れた魚を個々にさばいており、魚が分散している。そこで、市場を中心とした「ミニ築地」のような施設ができないか。
- 計画地では、居住地としての良さよりも、明石海峡や歴史性というところを強調してはどうか。
- 明石市は、明石海峡や鯛・タコなどの定着した明石ブランドがあり、B級グルメの玉子焼なども認知され、恵まれた環境にある。また、標準時の基準となる東経135度線上に位置することから、いわゆる日本の中心という恵まれた要素もあるが、なかなか生かせていない。
- 明石港では、クルージングも期待できるのではないか。明石海峡大橋をはじめ神戸から明石間の夜景の美しさは優れた観光資源であり、将来性がある。また、淡路島から小豆島方面への瀬戸内海クルージングも考えられる。
- 計画地の築造は昭和40年代の初めで、半世紀近く経過しているが、岸壁や物揚場は今後どれくらいもつのか。また、南海トラフ地震対策として、地盤の強化なども考慮してほしい。
- アイデア募集という形で県民と共に計画検討を進めることは非常に良い。じっくり時間をかけ、幅広く意見を集めてほしい。

以上